

溝上慎一の教育論(動画チャンネル) No304

(新著の紹介)

## 新著『探究—理論と実践』

田口哲男先生(共愛学園前橋国際大学短期大学部 教授)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長  
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問  
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<http://smizok.net/>  
E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

\*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。



## 田口哲男 (たぐち・てつお)

共愛学園前橋国際大学短期大学部教授

群馬県立高等学校教諭・教頭、  
群馬県教育委員会高校教育課指導主事、  
高崎市教育委員会高等学校課長などを経て、  
高崎市立高崎経済大学附属高等学校長、群馬県立高等学校長などを歴任



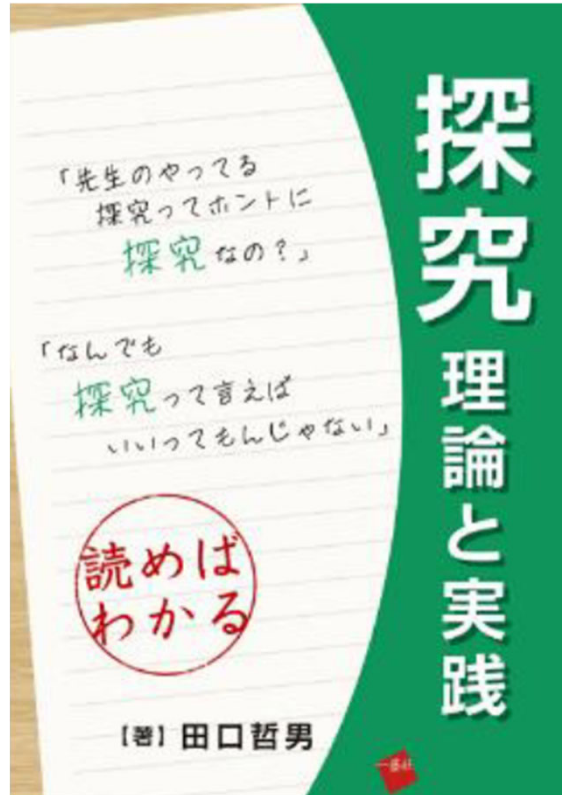
共愛学園前橋国際大学、公立大学法人高崎経済大学、育英大学兼任講師  
明照学園樹徳高等学校探究アドバイザー  
群馬県総合教育センター高校中堅教諭資質向上研修

専門は教科教育学（総合的学習、特別活動、進路指導、道徳、理科など）、教育学（教育の方法、学校教育など）

著書に『探究—理論と演習』（一藝社、2021年、単著）『高校における学びと技法 探究で資質・能力を育てる』（一藝社、2019年、単著）  
『高校生に確かな学力をつける』（学事出版、2018年、単著）『高大連携と能力形成』（日本経済評論社、2013年、共著）『NOLTY スコア 探究プログラム』（NOLTY プランナーズ、2019年、監修）など

日本スポーツ協会コーチデベロッパー、コーチ4、日本バレーボール協会公認講師

## (新著の紹介)



田口哲男 (2024). 探究—理論と実践 —藝社

### (目次)

- 第1章 汎用的な能力
  - 第2章 教育目標
  - 第3章 他者との協働（グループで行う活動）
  - 第4章 探究（含むPBL、改訂版タキソノミー、  
自己調整学習）
  - 第5章 「考えるための技法」と「思考ツール  
（シンキングツール）」
  - 第6章 問いを見いだし、課題を設定する
  - 第7章 情報の収集
  - 第8章 整理・分析
  - 第9章 まとめ・表現
- 探究の実践事例 明照学園樹徳高等学校（群馬県）探究  
学習の授業での展開の仕方

探究Q&A

それではご覧ください



11月9日(土)

# 探究—理論と実践



共愛学園前橋国際大学短期大学部  
KYOAI GAKUEN JUNIOR COLLEGE

田口 哲男

t.taguchi@jc.kyoai.ac.jp

## 田口哲男（たぐち・てつお）

共愛学園前橋国際大学短期大学部教授

群馬県立高等学校教諭・教頭、  
群馬県教育委員会高校教育課指導主事、  
高崎市教育委員会高等学校課長などを経て、  
高崎市立高崎経済大学附属高等学校長、群馬県立高等学校長などを歴任

共愛学園前橋国際大学、公立大学法人高崎経済大学、育英大学兼任講師  
明照学園樹徳高等学校探究アドバイザー  
群馬県総合教育センター高校中堅教諭資質向上研修

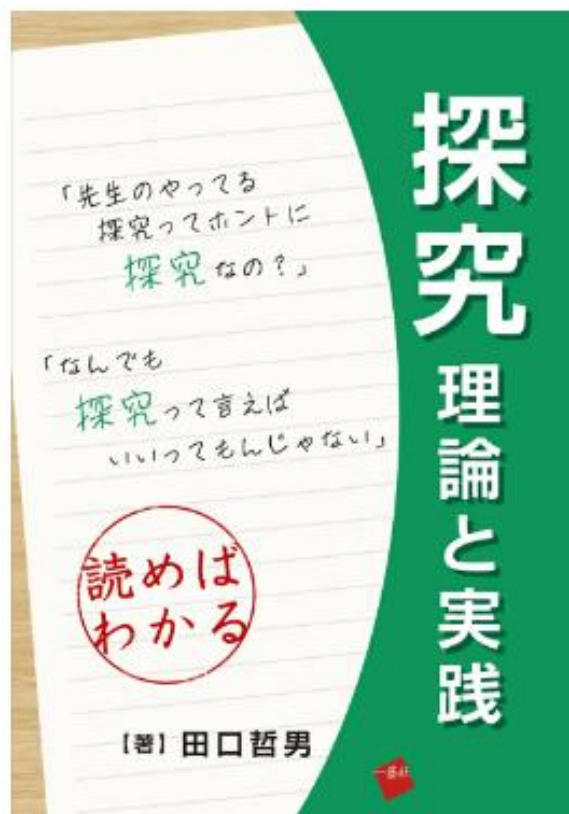
専門は教科教育学（総合的学習、特別活動、進路指導、道徳、理科など）、教育学（教育の方法、学校教育など）

著書に『探究—理論と演習』（一藝社、2021年、単著）『高校における学びと技法 探究で資質・能力を育てる』（一藝社、2019年、単著）  
『高校生に確かな学力をつける』（学事出版、2018年、単著）『高大連携と能力形成』（日本経済評論社、2013年、共著）『NOLTY スコラ 探究プログラム』（NOLTYプランナーズ、2019年、監修）など

日本スポーツ協会コーチデベロッパー、コーチ4、日本バレーボール協会公認講師



# 本書で大切にしている 5つの視点



# 学習指導要領を基盤にした学校裁量





# ゴールは資質・能力（社会を生き抜く力）の育成

Proactive, interactive and authentic learning (文科省英訳)

「生きる力」を育むために

## 子供たちの学びはどう進化するの？

### 主体的・対話的で深い学び

(アクティブ・ラーニング)

の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業を改善します。



一つ一つの知識がつながり、「わかった!」「おもしろい!」と思える授業に

見通しをもって、粘り強く取り組む力が身に付く授業に



周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業に

自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業に

### カリキュラム・マネジメント

を確立して教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図ります。



学校教育の効果を常に検証して改善する



教師が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業をつくる



地域と連携し、よりよい学校教育を目指す

学んだことを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力、人間性など



実際の社会や生活で生きて働く  
知識及び技能

未知の状況にも対応できる  
思考力、判断力、表現力など

社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、  
三つの力をバランスよく育みます。

文部科学省webページより 平成29・30・31年改訂 学習指導要領 周知・広報ツール

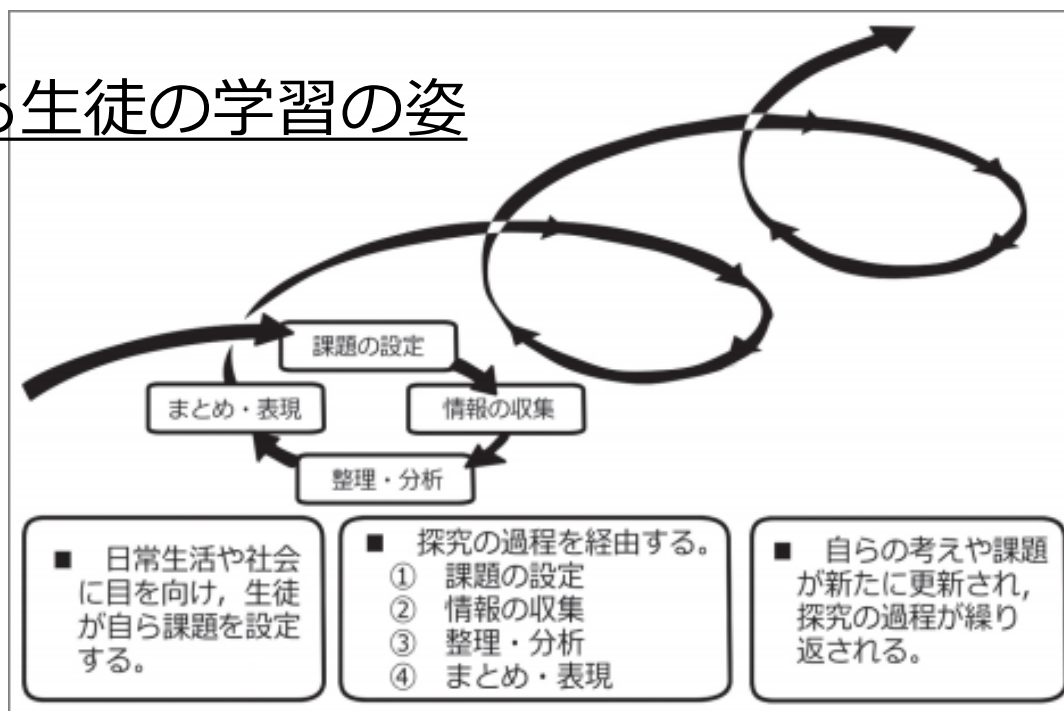
分割版 中面2 (改訂の内容) (A3・1ページ)

私があなただ方を愛したように、互いに愛し合いなさい KYOAI GAKUEN

# 探究学習とは

問題解決的な学習を試行錯誤しながら発展的に繰り返す過程で  
生きて働く学力（資質・能力）を育成すること

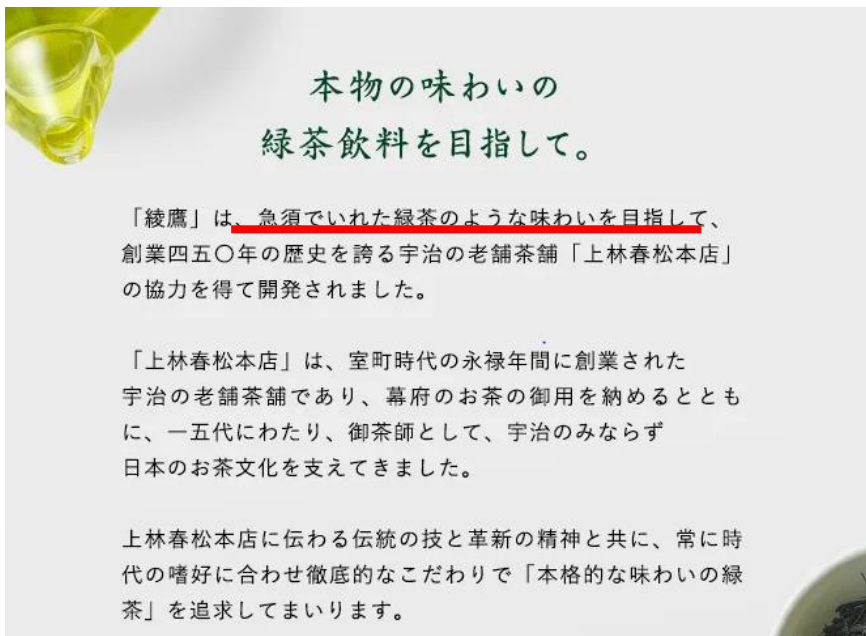
## 探究における生徒の学習の姿



高等学校学習指導要領解説(平成30年告示) 総合的な探究の時間編

# オーセンティックとは

2024おすすめ  
ペットボトル緑茶No.1



限りなく急須で入れた緑茶のような味わい  
を感じることができるペットボトル緑茶

オーセンティックとは限りなく本物に近いということ

# オーセンティックな学びの提供を！

## 教科・科目の授業

アタック、レシーブ  
ブロックの基礎練習  
(ドリル練習)



うまい！といわれるプレイヤーは、刻々と変化する試合の流れ（本物の状況）の中でチャンスをものにできるプレイヤーでは...

ドリル練習も  
オーセンティックさを

往還する

現実の社会  
試合



## 総合的な探究の時間

ゲーム形式の総合練習  
(オーセンティックな練習)



ホンモノの**におい**のする学び

この試合(ゲーム)の状況では  
どのプレーを選択したら  
よいのかなー(メタ認知)

現実の社会に存在  
する**本物の実践**に  
可能な限り近づけ  
て学びをデザイン  
する

# 先生はアンラーニングが必要では？

成功体験のある古い常識を意識的に捨て去る（はじに置く）ことで新しい当たり前を取り入れやすくする



アンラーニング（学びほくし）

新しい当たり前



アンラーニング(学びほくし)とは、成功体験のある古い常識を忘れて、新しい当たり前を取り入れやすくすることです。時代の変化に対応できる組織にはアンラーニングの習慣が宿っています。

etudes (エチュード) <https://etudes.jp/blog/what-is-unlearning>



# 本書の構成

大きく4つに分けてあります。

- 前半の章は総合的な探究の時間の考え方やその基盤になっている学習指導要領の考え方についてです。
- 後半の章は探究を進める上で必要になるノウハウです。
- 実践事例は探究を学校全体で取り組んでいる高校の実践です。
- Q&Aは探究学習を進める上でわかりにくい部分の回答です。

**第1章「汎用的な能力」**では、リテラシーやコンピテンシーの解説をはじめ、なぜ今、資質・能力を育てることが重視されるのかなどについて説明しています。

**第2章「教育目標」**では、総合的な探究の時間で育成を目指す資質・能力は学校が目指す資質・能力であることを踏まえて、カリキュラム・マネジメント、スクール・ポリシーをはじめ、学校の教育目標や総合的な探究の時間の目標の設定について説明しています。

**第3章「他者との協働（グループで行う活動）」**では、他者と協働することの重要性、グループ活動、特に話し合い活動の意義や手順、留意事項について説明しています。

**第4章「探究（含むPBL、改訂版タキソノミー、自己調整学習）」**では、探究はどのような活動なのか、高等学校の探究学習と小中学校の探究的な学習との違いは何か、総合的な学習の時間はどのように変化し総合的な探究の時間になったのかについて説明するとともに、中央教育審議会や文部科学省は探究学習において何を目指しているかについて記述しました。

**第5章「考えるための技法と思考ツール(シンキングツール)」**では、「考えるための技法」とは何か、それを可視化するために図や表を埋めながら考えを整理していく「思考ツール(シンキングツール)」のメリットや留意点、活用例について説明しました。

第6章から第9章までは、探究の過程である「問いを見だし、課題を設定する」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」についての意義や手順、実施するときのポイント、その際に使うと便利な思考ツール（シンキングツール）について説明しました。**ややハウツー的な要素**も含まれます。

「**探究の実践事例**」では、コアメンバーを学校全体の取組の核としながら、すべての教員が一丸となって探究学習を実践している**明照学園樹徳高等学校（群馬）の取組を実践事例**として示します。

広井勉先生から全教員でチャレンジする探究学習の取組を、小林弥生先生から具体的な授業実践例の一つである探究計画書の作り方を、それぞれ紹介いただくことで、どのように学校全体で探究学習に取り組んでいるのか、その一部を執筆していただいています。

**最後に Q&A を付ける**ことで、総合的な探究の時間を実際に行うときの課題や不安・疑問となることなどについて、解決のヒントになる考え方を示しました。





# ご清聴ありがとうございました



共愛学園前橋国際大学短期大学部  
KYOAI GAKUEN JUNIOR COLLEGE